

芳野よしのに遊あそぶ
(菅かん 茶山ちやざん)

一目いちもく 千株せんしゆ 花はな 尽ことごとく 開ひらき

満前まんぜん 唯ただ 見みる 白はく 皚がいがい々

近ちかく 人語じんごを 聞きけども 処ところを 知しらず

声こえは 香雲こううん 団裏だんりより 来きたる

一目千株花盡開 満前唯見白皚皚
近聞人語不知處 聲自香雲團裏來

解説 春の桜の盛りのときに吉野を訪れ、その見事な景色に動かされての作。

語釈 ※一目千株 桜の木の多い状態を示す。※満前 前方一面に。

※皚皚 桜の花が霜や雪のように白いこと。※人語 人の話し声。

※香雲 香かぐわしい雲。満開の桜の花をいう。※団裏 かたまりの中。

通釈 この吉野山に来て見ると、「一目千本」といわれるように、多くの桜の木が満開の花をつけ、目の前はただ雪におおわれたように真白である。ふと人の話し声が聞こえてくるが、さて、どこにいるのか見当がつかない。それは香しい雲の中から出てくるのである。